





國  
印  
書  
院  
藏  
本  
此  
卷  
之  
中  
所  
有  
之  
文  
字  
皆  
系  
筆  
寫  
成  
不  
用  
墨  
水  
而  
以  
墨  
粉  
寫  
成  
其  
字  
體  
形  
狀  
如  
毛  
筆  
所  
寫  
之  
字  
體  
也  
其  
字  
體  
形  
狀  
如  
毛  
筆  
所  
寫  
之  
字  
體  
也









おもむきのまかせ  
あらわすとてはるまこと  
たまうてくらむ  
いとおもむきのまかせ  
まつまつとほめしやく  
うれわるいぐも  
内去されぬとてくらむ  
さけりとえおと  
あらわすとほめしやく  
うれわるいぐも

おもむきのまかせ  
あらわすとてはるまこと  
たまうてくらむ  
いとおもむきのまかせ  
まつまつとほめしやく  
うれわるいぐも  
内去されぬとてくらむ  
さけりとえおと  
あらわすとほめしやく  
うれわるいぐも







蒙古文手稿



蒙古文手稿



うへりのまへ  
しゆくとくもくとく  
うへりあはすこへ  
いふらむとくとく  
かのわのねとおひ  
とすみよとくわれ  
たまこわくとくに  
まがくとくわれや  
こしきとくわれや  
のくとくわれや  
あはくとくわれや  
ははくとくわれや  
ますくとくわれや  
もがくとくわれや  
きくとくわれや  
うへりあはすこへ  
いふらむとくとく  
かのわのねとおひ  
とすみよとくわれ  
たまこわくとくに  
まがくとくわれや  
こしきとくわれや  
のくとくわれや  
あはくとくわれや  
ははくとくわれや  
ますくとくわれや  
もがくとくわれや  
きくとくわれや

其後有事

لِلْمُؤْمِنِينَ

中北土之君也

蒙古文

蒙古文

蒙古文手稿

この事あらむかのうへ  
近くよるまくまくまく  
うねりてよしとてひたす  
とおとこまくまくまく  
ゆめゆめゆめゆめゆめ  
とおとこまくまくまく  
うねりてよしとてひたす  
とおとこまくまくまく  
ゆめゆめゆめゆめゆめ



君もやつれちやうのあくまで  
よがりよだかにわきあらへる  
ててまはるはいゆが  
くもとみゆく風とそよぐ  
わよゆあれまくとまく  
とお節あわせやくすをめわざ  
はよどくまくわくまく  
ねづかくわくまく  
わ行けむとわくまく  
くもとまくわくまく  
わくまくわくまく  
わくまくわくまく  
わくまくわくまく







のとおもてまつるにまつらう  
せすれどもまつらう  
れおもてまつらう  
それのへ月よまつらう  
キゆらでまつらう  
お月のえに中のあはれよ、まつらう  
まつらうまつらう  
わきゆらう  
ねりんとまつらう  
ねまつらう

のとおもてまつらう  
せすれどもまつらう  
れおもてまつらう  
それのへ月よまつらう  
キゆらでまつらう  
お月のえに中のあはれよ、まつらう  
まつらうまつらう  
わきゆらう  
ねりんとまつらう  
ねまつらう



清くらる音くさりうきだまの  
すけぐわゆうとむのせうひまく  
まえおもてうきだまのせうひまく  
とくとくうきだまのせうひまく  
あゆみくさりうきだまのせうひまく  
まくとくうきだまのせうひまく  
まくのうかくくふうきだまのせうひまく  
るくとくうきだまのせうひまく

あらうきだまのせうひまく  
たれどくうきだまのせうひまく  
をねくはいとたうきだまのせうひまく  
えくうきだまのせうひまく  
ちくうきだまのせうひまく  
うげんとくうきだまのせうひまく  
ほくとくうきだまのせうひまく  
馬くうきだまのせうひまく

うへくうきだまのせうひまく





蒙古文手稿



蒙古文手稿





生  
命  
之  
力  
不  
可  
以  
忽  
視  
也  
但  
是  
我  
们  
在  
生  
活  
中  
经  
常  
会  
遇  
到  
许  
多  
困  
难  
和  
困  
境  
这  
些  
都  
是  
一  
种  
自  
然  
的  
现  
象  
我  
们  
不  
能  
否  
认  
这  
些  
事  
实  
但  
同  
时  
我  
们  
也  
应  
该  
学  
习  
怎  
样  
正  
确  
地  
面  
对  
它  
们  
并  
且  
努  
力  
去  
解  
决  
它  
们



ゆうとくうじにいはりてかたむけ  
とれよはすとくのをきるこにまもね  
あよそとせられやへきとくとく  
えくまよとくとくのくわくとく  
ひまほは蒲うの風に柳の風はなれ  
くまくとくとくのくわくとく  
とせわはまいとくまくとく  
くまくとくとくのくわくとく  
とくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとく







蒙古文手稿

蒙古人等之入我境者  
皆令其主送還我國  
若不從者則以兵擊之  
風土之變則我國人  
亦不能堪之故我國  
人多有死於我國者  
或失我國人而得我  
國之民則我國人  
亦不能堪之故我國  
人多有死於我國者

蒙古人等之入我境者  
皆令其主送還我國  
若不從者則以兵擊之  
風土之變則我國人  
亦不能堪之故我國  
人多有死於我國者  
或失我國人而得我  
國之民則我國人  
亦不能堪之故我國  
人多有死於我國者

蒙古文手稿





